

2016年4月5日

各 位

大阪信用金庫
理事長 樋野 征治

定例調査：第167回 景気動向調査（1～3月期）

☆失速アベノミクス 製造業急落 売上D I Δ16.6 収益D I Δ11.9
 ☆補助金効果？ 製造業 設備投資 「実施・予定」 22.7%に上昇
 ☆景気低迷 問題点 「売上の停滞減少」 52.6%に上昇
 ☆「賃上げ実施予定」 小幅上昇 24.1% (昨年+1.0 対)

●失速アベノミクス 製造業急落 売上D I Δ16.6 収益D I Δ11.9

総合では、売上D IがΔ9.2(前回はΔ5.4ポイント)、収益D IがΔ7.9(前回はΔ1.1ポイント)となり、売上D I・収益D Iともに前回調査から下落しました。特に、製造業では売上D IがΔ16.6(前回はΔ16.6ポイント)、収益D IがΔ11.9(前回はΔ5.5ポイント)と急激に落ち込んでいます。これは、消費増税後の需要の反動減があった2014年6月期の売上D I(Δ4.9)をも下回る水準で、アベノミクスは失速しています。他に売上D Iが下落したのは、運輸業(前回はΔ11.0ポイント)、卸売業(前回はΔ6.3ポイント)、飲食業(前回はΔ5.2ポイント)、不動産業(前回はΔ2.7ポイント)で、景気は足踏み状態から未だ脱していません。6月期の見通しは、飲食業と建設業を除く6業種が上向くと予想しています。しかし、中国経済の減速に加え消費マインドの回復も鈍く、先行きは予断を許しません。景気回復を実感できる経済対策の早急な実施が望まれます。

●補助金効果？ 製造業 設備投資「実施・予定」 22.7%に上昇

設備投資は、総合では「実施中」が7.2%(前回はΔ1.3ポイント)、「予定あり」が10.9%(前回は+2.7ポイント)となり、「実施中」と「予定あり」の合計は前回調査から1.4ポイント増加しました。特に、製造業は5.0ポイント上昇し22.7%となっています。製造業で「予定あり」が上昇したのは、補正予算によるものづくり補助金の公募がスタートしたことも要因の一つと思われます。

●景気低迷 問題点 「売上の停滞減少」 52.6%に上昇

経営上の問題点は、景気が失速し、総合では「売上の停滞・減少」が52.6%(前回は+1.3ポイント)となりました。また、人手不足は運輸業や建設業だけでなく、サービス業でも37.0%(前回は+7.7ポイント)となり深刻化しています。

●「賃上げ実施予定」 小幅上昇 24.1%(昨年+1.0 対)

賃上げの実施予定について、24.1%(前回は+1.0ポイント)が実施すると回答し、前年度(前回は+4.6ポイント)に比べて微増となりました。また、ベースアップや定期昇給予定額は、昨年に比べて減少しています。人手不足を解消するため賃上げを実施する企業は増えてきましたが、予定額は景気の先行き不透明感から小幅に止まっています。

調査時点：2016年2月下旬
 対象期間：2016年1～3月(実績) 2016年4～6月期(見通し)
 対象企業：当金庫お取引先1,783社(大阪府内、尼崎市)
 回答企業数：1,265社(回答率70.9%)
 調査方法：調査票郵送および聞き取り調査

本調査に関するお問い合わせは下記までお願いします

株式会社だいしん総合研究所(担当：平山)

TEL:(06)6211-2921 FAX:(06)6211-2930

E-mail:souken@osaka-shinkin.co.jp

URL http://www.osaka-shinkin.co.jp